

ことゝ思ふ、成程車力が重い車を九段坂の上へ曳きあげるのも一生懸命とは言ふけれども意義の有無によつて、

毎夜遅くなるために其の都度巡査に調べられるので何時とはなしに巡査と見知り越しになつたのもあれば特に給仕は退勤時間表を持たせて其れ等の証明に代へたこともあつた、

併し我々は忙がしければ忙がしいほど元氣になれる、働らける、心持ちがよい、出来高が一日三萬や四萬で、片つ端から空廻り〇札の行列で一時間かそこらで場を終るやうでは、頓と張合がなく、冗談ごとのやうであるが出来て来たとなると氣分がしまつて来る、殊に心理状態と言ふものは不可思議なもので我々には高いも安いも別段の痛痒はない筈であるのに、暴騰と来ると通しつ振りも、記けつ振りも、撃拆の鳴り工合も良いやうで、ドタルの呼値も一段と違ひ

2497/2498
2488/2493
2474/2475
2479/2480
2457/2458

やうな氣がする、

24.1
25
298
216
223
234
251

此の頃は他處の食店から變つたものを取寄せるが以前は徹夜になると、小使が總がゝりで飯を焚いて大きな盥へ入れて別に大鍋で鳥の汁を造つて其れを所員が十二時頃に食つて空腹を凌いだものだ、無論極めて輕便なる食堂？であるから立食、盥の飯で小使の御給仕と言ふのだから大層うまい譯もない筈であるが之れを食ふと何んもなく徹夜の氣分になれて好いものだ、

能率増進之れをエフイ、シエンシーとか言つて智識階級で此頃の話柄ともなり問題ともなつて居るが、我々以上に能率増進を極度に事實に於て行つて居るものは他にあるまい、此れが勞働問題をつべこべ言ひたがる亞米利加あたりであつたら嘸苦情を言ふだらう、併し我々は曾て言はない、否我々は笑つて、エフイ、シエンシーの可能性

を社會に示して居る、

二人が怒鳴るのを一人が記帳する、大體注文は無理なので、無理などころか酷なるものなのだ、字體不明瞭蓋し已むを得ない、併し見るの明あつて之れを見れば秩序亂れず一線は一線と浮き出して世にも稀なる妙へなる字なのであつて、其の略し方にも一定の法があるのだ、

其の場帳、

之れが事務の源泉となつて最終の報告書となつて仲買人の手へ渡すまでには幾十人の目と目、手から手に渡つて繁雜なる計算をすることやら、

三月の間手鹽にかけて居た子供は皆な限月がくると受渡して出て行つて、一日を隔いてまた更に新甫と言ふ可愛らしい子供を貰ふの

だ、

斯うして我々は毎日出來よ、より多く出來よと願つて居る。

筆を擱くにつき

一大概の書籍名士の序文を載せて巻頭を粉飾するを常となす、予は然ることを好まず、何んとなれば予は序文を賣るにあらざるを以てなり、唯先輩小山君の序文を囑し置くに止めたり、之れとて小山君子と共に目下大多忙なるを以て或ひは上梓すること能はざるやの遺憾あり、諒せられよ。

二目下社務大多忙眞に要領に止めて舞文するの遑なし文體支離滅裂乞ふ諒せられよ。

三未見の一書生の書、予の贈らんとする二三の交友の外見る人少な

かるべし、或ひは全たく見る人なけん、書肆には實に氣の毒なり然れども予は悔いざるべし。

直市場の事や、予を惜いて知る人少なし、一卷の記録を残し置かざらんか終に湮滅せん、予之れを惜しむの餘り予の文に拙なるの恥を忍ぶ、乞ふ諒せられよ。

四書肆の都合もあり、意に満たざるの記事あり、乞ふ諒せられよ、五執筆して書肆に引渡すまで僅かに五日なり、配別拙劣殊に言はんとして言ひ能はざるところ多し特に遺憾となす、然れども萬一僥倖にして再度版を組むの機會ありとせば是正して讀者の意に酬いん、乞ふ諒せられよ。

附 録

東京株式取引所四十年小史

設立 抑も本邦に於て有價證券の賣買取引に關し成文法の制定せられしは明治七年の株式取引條例を以て權輿とす、然れども該條例は範を倫敦株式取引所の規約に採りしものにして幼稚なる當時の我經濟狀態と支吾するもの多かりしかば政府に於て民間の有力者に勸説し證券取引所設立の發起を慫慂せしも其の效なく遂に全然徒法に歸せり、茲に於てか政府も大に鑑みる所あり明治十一年我邦在來の商習慣と當時の實情とを斟酌して新たに株式取引所條例を發布し米相場會所の例に倣ひて營利組織の株式取引所を認むることとなり茲に當所の設立を

見るに至れり、當所の開業は明治十一年六月一日にして今大正七年を距る實に四十年の曩昔なり。

「ブールヌ」條例 當時我邦は西南戦争の後を承けて不換紙幣國內に横溢し物價一齊に貴くして貿易權衡を失ひ正貨の流出は金紙の差をして日に滋す酷たしからしめ浮薄なる投機熱一代を風靡して世道人心頹廢の虞ありしかば明治十五年政府は條例に改正を加へて仲買人の自己賣買を禁ずると同時に仲買營業に重税を課するなど遽かに取締を嚴にしたれば一時殷盛を極めたる各地取引所も漸く衰微に傾き殊に明治十八年の如き恰も財界の恐慌に際會して疲弊甚しく當所亦收支相償はざる悲境沈淪せしが明治十九年に入り不換紙幣の整理完く成り財界恢復の端緒に着くや偶ま取引所税率の輕減せらるゝあり、彼此相

寄り相須ちて市況稍活氣を呈するに至れり、然るに在來賣買取引に對する政府の取締頗る嚴酷にして輕躁なる射倖心の瀾漫は之を抑止し得たれども其の反面に於ては一方市場の賣買取引著しく減退すると同時に他方密賣買盛行し弊竇百出遂に收拾すべからざるものありしかば制度改善の急を懇ふる聲漸く高く朝野識者間に論議鼎沸せり、此時に當り政府は時弊の淵源を求めて全然罪を取引所の營利組織に歸し既設取引所は免許年限の満了を俟ちて總べて之を廢止し之に代ふるに歐米の會員組織を以てせば取引所改善のこと易々として掌を運らすが如くなるべしとなし明治二十年歐米の制度を模倣して編纂せる新條例を布けり、「ブールヌ」條例として天下の耳目を震撼せるもの即ち之なり。

取引所法制定 新取引所條例發布の當時該條例に準據して會員組織の取引所の設立せられしもの二三之れなきにあらざりしかども其の變革の急激なる果然全國取引所の猛烈なる反對を喚起し遽かに株式組織の廢絶を期すべくもあらざりしかば一方舊取引所の營業期限の延期を許可して一時を糊塗し他方制度の改善に關しては更に攻究を積むこととなり治く各國の制度に就きて調査を遂げ備さに彼我の長短を比較して取捨を加へ此間數年を費して終に明治二十六年新法の發布を見たり、現行取引所法大正三年改正、一一頁參照、既ち之なり、由來明治政府の取引所政策は勅令專改變革常なく人をして徒に適從する所を知るに苦しましめしが此の時に至りて其の根本主義約は確立し當所亦新法に依り十箇年間營業繼續の許可の得て糊

めて基礎の安定を得るに至れり。

限月短縮令 明治二十七八年戰役の後我國民經濟は急激の膨脹を遂げ諸般施設舉つて面目を一新したりしかば當所亦時勢の要求に應じ屢次増資を執行して擔保能力の充實に努めしが國民戰勝に酣醉して風俗漸く浮華に流れ眞摯なる事業計畫地を掃ひて不健全なる投機熱上下を風靡し而かも政府の措置宜しきを得ざりし結果小取引所濫設せられ事態寔に塞心すべきものあるに至れり、茲に於てか政府は明治二十九年省令を發して米及び有價證券の現物市場の設立に就き取締を嚴にする方略に出でしかども未だ以て時弊を救治するに足らざりき、而かも一方經濟界の進歩は屢々乎として晝夜を分たす會社企業の發達に伴ひて有價證券廣く上下に普及し株式市場の隆替は延き

て國民の休戚を左右する趨勢を馴致するに迫り取引所問題は又復讞者の注意を喚起するに至れり、明治三十三四年の比時の農相平田東助氏は敢然取引所の改善に志し木内商工局長を歐米に差遣して各國の制度を視察せしめ當所亦江口書記長を遣はして私かに調査を怠らざりしに木内局長復命の結果は明治三十五年六月突如勅令の改正として發表せられ一時天下の耳目を聳動せしめたり、蓋し該勅令は有價證券の定期取引につき限月を二箇月に短縮せしが故なり、而かも其の施行期日目睫の間に逼り事態頗る急切を告げしかば全國取引所は聯盟して極力反對を絶叫し且つ一方當路に陳情して施行延期を要請せしも容れられれば遂に改正勅令は指定の期日より實施せられたり、果然市況恐慌状態を演出し全國の取引所は忽ち一齊

に衰頹の極に瀕せしが就中當所に被りし打撃は最も激甚にして一日の買買高僅に一千株内外に過ぎざりしことあり、所屬仲買人亦孰れも休業同様の窮地に陥れり、茲に於てか世論囂囂當局の非を鳴らす聲漸く高く政府亦聊か反對する所あり、三十六年に入るや延取引に一種の轉賣、買戻の制度を認むることとして改正勅令の缺陷を捕綴せむとせしも商況依然蕭條を極め未だ以て取引所機能の障礙を除却するに足らざりしが七月平田農相の引責辭職と共に限月復舊せられ始めて當所は復活することを得たりき。

直取引制限令 明治四十一年の頃當所は定期取引に倚賴せる人氣の偏曲を矯めんが爲め明治三十九年の改正勅令に基き直取引の競賣買を開始すると同時に新たに直取引專業の仲買人を置き

且手数料制戻の制を開きて方を直取引の奨励に倣ひしかば爾來兩三年直取引は日を逐ふて振興し殊に當所新株式の賣買最も昌盛を極めたりき、然るに直取引の振興に連れ當所の相場を標準とし差金授受を目的として空賣買を試むる徒輩簇出し物議を醸し、かば時の農相大浦兼武氏は競賣買に依る直取引を以て財界の安寧を壞るものと認め公債以外之を嚴禁すべき旨を令達して特に當所新株式の賣買を抑壓するに至れり、斯くて直取引の競賣買は胚葉にして早く既に其の發達を阻害せられたれば當所は直取引仲買人を廢すると同時に曩に一旦休戦せし當所新株式の相對賣買を再開せしが是れ亦當局の内諭に依り日ならずして再び休止するの已むなきに至りたり。

取引所法改正 限月短縮の改廢によりて一時小康を得し取引所問題

は端なく直取引禁止問題の勃發と共に又復再燃し終に大正三年の法令改正を生めり、之に關聯して忘るべからざるは取引所減税問題なりとす、日露戰役中取引所税は非常特別税法により二回の増率に會ひて著しく加重せしが平和克復後國費多端にして遽かに減税を斷行するに由なく遂に政府は明治四十三年に迫り國債證券を課税物件より除外すると同時に非常特別税法による増徴を本税に合算し事實上之を恆久税に改定せり、戰後熱狂的時代に際しては又征税の多寡を顧慮するに遑あざりしが人氣鎮靜に歸するに連れ負擔の過重を感ずること漸く痛切となり、明治四十一年の比よりして以降、財界の反動期に入ると共に人氣益々萎靡して再た振はず、當所賣買高の如き亦逐年遞減の趨勢を追ふて市況闇然たり、此時に當

り全國取引所聯合會は數次協議を重ねて當路に進言するところあり、政府亦當業者の意見を參酌するに吝ならず、大正三年取引所法を改正すると同時に新たに取引所令を布き且取引所税法を改めて大に税率を輕減するに至りしかば當所亦新法令に據りて定款、營業細則を改正し併せて賣買手数料率を改定したり。

小口落禁止 近時歐洲動亂の影響を被りて物價平準を失し殊に米價は大正六年四五月頃以降連りに昇騰を告げ政府に於て百方之が調節を試みしも未だ騰貴の趨勢を抑止するに足らず終に空前の高値を現して漸く國民怨嗟の聲を聞くに至りしかば大正七年六月仲小路農相は取引所令に改正を加へて斷然小口落を禁止せり、蓋し小口落の制度は取引所計算上の一便法にして

多年の慣行に屬し大正三年の取引所法改正に際しては政府も之を是認する旨公然言明したる所なり、加之素と株式と其他の物件殊に米穀とは其の間事情大に相異なるものあるに拘はらず政府は法制上主義統一の上より株式取引所にも均しく之が禁止を命ずるに至れり。

現物取引 是より先當所は有價證券近時の發達に鑑み定期取引と相駢ひて現物取引を振作し以て證券流通の圓滑を圖ると同時に益す取引所の經濟機能を發揮する方案を樹て屢次當局と折衝を重ね來りしが未だ其の解決を見るに至らずして在昔今日に及べり、然るに軌近現物賣買の盛行誠に張目すべきものあり、時勢の要求は仲買人の自覺發奮と相俟ちて遂に現物取引組合の成立を見るに至りたれば當所も仲立人を公認し九月より現

物取引の名の下に直取引と延取引とを併せ行ふこととせり。

賣買物件 明治十一年開業の當初の賣買物件は國債證券兩三種に過ぎざりしが幾何もなくして當所株式の賣買を開始し爾後相踵いて二三證券の上場を見しが當時最も取引の頻繁に行はれしは金祿公債にして其の他の國債類之に亞ぎ株式の賣買の如き殆ど見るに足るものなかりき、然るに翌十二年九月金銀賣買の開始せらるゝや人氣翕然ととして此に集注したりしが、明治十九年に至り幣制の整理完成を告げ金紙の差消滅して銀貨賣買全然其の跡を絶ち公債價格の激動漸く鎮靜に歸して再び昔日の波瀾なく市人相率ゐて株式に傾倒するに至り遂に今日の盛況を將來せり、爾來上場物件の銘柄數は年を逐ふて増加し日清戰役後に於ては八十種を數ふるに至りしが日露戰役の

沸騰時代に至りて遂に一百を抜き大正七年度上半期結算の際に於ては國債十二種、外國債三種地方債二十三種、社債百二十一種、株式二百四十三種に上り上場株式資本金高は十五億圓に垂ひとせり。

營業成績 次に定期取引賣買高、取組高及受渡高を見るに株式一日出來高三十四萬五千七百七十七株(大正五年十一月十一日)同取組高三期合計百三十五萬九千二百四十株(大正五年十一月二十七日)一箇月受渡高株數五十三萬六千五百五十株(大正五年十二月)同代金五千二百七十七萬五千九百九十圓(大正五年十一月)の記録を作れり、

資本金 當所の資本金は設立の當時僅かに貳拾萬圓に過ぎざりしが明治二十六年之を參拾萬圓に増大し爾後時勢の推移に順應し

て屢次増資を行ひ來りしが大正六年六月第六回の増資によりて今や資本金貳千萬圓となり設立當時に比し實に百層倍の膨脹を來せり。

市場設備 當所の市場設備は開業の當初米商會所の建物を譲受けて之に充てしものなるか明治二十八年一旦之を改築し明治四十四年更に大に其の規模を擴大して稍形容を整へたりしに不幸にして大正六年十二月中火災に罹り市場を除く外建物概ね灰燼に歸したれば目下工費貳百萬圓の豫算を以て新市場を始め建物全部新築の企畫中なり。

營業年限 當所の營業年限は幾度か更新せられしが最近大正二年中更に同年十月一日以降向ふ十箇年間營業繼續の許可を得たり。

役員

當所の役員は當初頭取の下に肝煎四名を置く定なりしが設

立當時就任せしは頭取小松彰氏、肝煎福地源一郎、小室信夫等の諸氏なりき、其の後澁澤喜作、井關盛良、河野敏鎌、谷元道之、大江卓の諸氏相前後して頭取の椅子を襲ひしが明治二十六年新取引所法の實施と共に頭取、肝煎の名稱は廢せられて理事長並に理事と改められ大江氏理事長に就職せり、明治三十二年の改選に際し金子堅太郎氏理事長となり翌三十三年中野武營氏之れに代りて爾來職に留る事十有餘年の久しきに亘りしが明治四十四年の改選に當り中野氏と共に理事伊藤幹一、中島行孝の兩氏亦同じく再選を辭し新たに男爵郷誠之助氏理事長に角田眞平氏理事長代理に、前川太兵衛、藤山雷太、山口卯之助の三氏理事に新任し其他は重任せしが大正七年五月江口駒之助氏理事を辭するや岡崎國臣氏入りて之れに

附錄
代り。

一六

大正七年十一月二十八日印刷
大正七年十二月十一日發行

正價金壹圓四十錢

不許	複製
----	----

著者 關 澄 繁 雄
發行者 武 井 豊
印刷者 橫 山 喜 助
印刷所 活 文 舎
東京市日本橋區蠣殼町一丁目三番地
東京市日本橋區美土代町二丁目一番地
東京市神田區美土代町二丁目一番地
東京市神田區美土代町二丁目一番地

發行所
賣捌所

東京市日本橋區蠣殼町一丁目三番地
電話浪花三八〇一・振替東京一九四五八
東京市日本橋區
振替東京二七〇番
東京市東區
淡路町四丁目
東京市日本橋區
振替東京一七四四番
大阪堂島一丁目
大阪商要新報社
東京市東區
登美屋
至誠堂書店

一般資本家に有力なる株式の研究資料を提供する者は本書也
過去及現在の調査記述に於て本書は最も正確にして資料豊富也

東京株式取引所編纂

(殘部僅少)

東京株式取引所史

四六倍版總クロー
天金美本寫真版、石
版圖表十數葉
上等紙四百餘頁

▲發賣部數五百部 一部金參圓五拾錢(郵稅十二錢)
(滿鮮臺四十錢)

本書の内容

- 【第一】 東株を中心として本邦取引所制度の變遷を記述す、コレ堂々たる取引所制度史にして本書一册あれば取引所制度の變遷を知るに用を缺かず。
- 【第二】 定款並に營業維則改正の沿革を詳述す、コレ創立當時の規定より現行法に至る迄の活歴史にして、當業者及び市場關係者は是非共一本を備へざる可らず。
- 【第三】 創立以來の手数料、仲買人口錢改正の内容を詳悉す、コレ明治七年の株式取引條例第二十六條第三項に依る手数料規定に筆を起して明行規定に及びたるもの寔に興味ある史實なり。
- 【第四】 諸證據金、代用證券及び身元保證金規定の變遷を明かにす、若し夫れ今日の諸證據金、代用證券及び身元保證金規定を創立當初の夫れに比較し、且つ其の間如何なる變遷を爲し來れるかを思はば、必讀せざるを得ず。
- 【第五】 創立以來四十年間に於ける市場景況を年別に記述す、波瀾多き株式界の四十年其の長き歲月の間には、必ず

早阪 二菊著 好評最新 再版	福澤 桃介著 好評歐 再版	大教正 照覺編 自天保元年東京 至高正三年期米	大教正 照覺編 自明治七年一月東京 至高正三年二月期米	長内 魯堂著 好評 再版	佐々木 羽黑著 最新本場 刊定用	佐々木 羽黑著 好評主觀 再版	佐々木 羽黑著 好評主觀 再版
期米之研究	株式活歴史	高低毎月圖解	先物高低圖解	期米目先數理秘法	羽黑式極秘罫線法	羽黑式測定法	羽黑式測定法
洋裝菊版 正價金十二錢	總革四六 正價金二圓五十錢 版全一册 郵稅金十四錢	石版二色 定價金十二錢 刷全一帖 郵稅金十二錢	石版二色 定價金六圓 刷全六帖 郵稅金二十四錢	洋裝寸珍 定價金一錢 全一册 郵稅金八錢	洋裝寸珍 正價金一錢 全一册 郵稅金八錢	洋裝菊版 特價金十二錢 全一册 郵稅金十二錢	洋裝菊版 特價金十二錢 全一册 郵稅金十二錢

早阪 二菊著 增補株式相場經濟學 一名實驗投機學 洋裝菊版 正價金三圓 全一冊 特價金二圓五十錢	早坂 二菊著 增訂最新期米賣買 洋裝四六 正價金一圓 版全一冊 郵稅金八錢	小關 金山著 新刊期米相場觀測術 和裝 郵稅共 全一冊 正價金七十錢	樽谷 德藏著 新刊米株光明投機寶典 洋裝寸珍 正價金一圓五十錢 全一冊 郵稅金八錢	阿部 熹著作 最新刊米株野線學の粹 洋裝寸珍 定價金一圓 全一冊 郵稅金六錢	阿部 熹著作 最新刊米相場の奥の手 洋裝寸珍 定價金一圓 全一冊 郵稅金六錢	阿部 熹著作 最新刊期米天底直巾測定極秘 洋裝寸珍 定價金一圓 全一冊 郵稅金六錢	阿部 熹著作 最新刊活用米相場極意 洋裝寸珍 定價金一圓 全一冊 郵稅金六錢
--	--	---	--	---	---	--	---

阿部 熹著作 最新刊統計的九星相場活用大鑑 洋裝菊版 正價金五圓 全一冊 郵稅金十二錢	佐々木 羽黑著 近刊羽黑式太野線法講義 洋裝菊版 正價金三圓 全一冊 郵稅金十二錢	佐々木 羽黑秘法 最新刊米斷じて損をせる法 洋裝寸珍 正價金一圓 全一冊 郵稅金六錢	早阪 二菊著 好評再版期米相場大野線學 洋裝菊版 正價金三圓 全一冊 郵稅金十二錢	易學大家 九鬼 盛隆著 最新刊米株易占 附相場正夢考 洋裝寸珍 正價金一圓 全一冊 郵稅金八錢	白隱 老人著 增訂三版期米相場策戰學 洋裝菊版 特價金三圓 全一冊 郵稅金十二錢	商學士 荒山 泰著 新刊期米相場用語全集 洋裝四六 正價金一圓 版全一冊 郵稅金八錢	五十嵐 力著 好評三版株式閑話 洋裝四六 正價金一圓二十錢 版全一冊 郵稅金八錢
--	--	---	--	---	---	---	---

早阪 二菊著 增訂 株式相場認識學 洋裝菊版 定價金二圓五十錢 全一冊 郵税金十 二錢

早阪 二菊著 最新 新東株日々高低表直 新式美裝 郵稅共 全六帖 定價金一圓八十錢

早阪 二菊著 最新 株式之研究 洋裝四六 正價金一 版全一冊 郵税金八 錢圓

出羽 本間宗久翁遺著 好評 新譯 宗久翁相場全集 洋裝菊版 正價 上製二圓廿錢 全一冊 郵稅金十 二錢

早阪 二菊著 好評 最新 株式定期之研究 洋裝菊版 正價金三圓五十錢 全一冊 郵税金十 二錢

佐々木 羽黑著 好評 主觀米 小掬秘法 洋裝寸珍 正價金一 全一冊 郵税金六 錢圓

井上 三味著 株式相場要訣 洋裝三六 定價金八 版一七〇頁 郵税金八 十 錢錢

井上 揚三郎著 高底罫線推理法 洋裝四六 特價金三 版三〇頁 郵税金十 二 錢圓

中柄 正一著 日露戰役株界活躍史 洋裝菊版 定價金五 三八〇頁 郵税金十 六 錢圓

野城 久吉著 革命來の米界 洋裝菊版 定價金二 三四〇頁 郵税金十 二 錢圓

岡本 鶴園著 兜町繁昌記 洋裝菊版 定價金一圓五十錢 三三〇頁 郵税金十 二 錢錢

愛花 神通著 相場格言 洋裝袖珍 特價金二 六〇頁 郵税金四 十 錢錢

伊藤美太郎著 米相場安全法 洋裝四六 定價金一 一二〇頁 郵税金八 錢圓

井上 三味著 株式期米投機の掛引 洋裝菊版 定價金一圓六十五錢 一二〇頁 郵税金八 錢錢

田中 正之著 スペキレーション 洋裝菊版 定價金一圓八十錢 四三〇頁 郵税金十 二 錢錢

加藤治之助著 株式期米相場指針 洋裝四六 特價金四 版七〇頁 郵税金六 十 錢錢

小關金山著 相場易斷奧傳 洋裝四六 定價金五 十 錢

伊藤美太郎著 株式投機の手引 洋裝四六 定價金一圓四十 錢

青木傳吉著 定期賣買之秘傳 洋裝四六 定價金三 十 錢

玄機堂主人著 株式相場測定術 洋裝菊版 特價金二 十 錢

最新刊 阿部 熹著作 立會期米小巾測定極秘 洋裝寸珍 定價金一 錢

最新刊 阿部 熹著作 野線株式大勢測定口傳 洋裝寸珍 定價金一 錢

最新刊 阿部 熹著作 米株秘錄 洋裝寸珍 定價金二 錢

最新刊 阿部 熹著作 米天井底の研究 洋裝寸珍 定價金一 錢

最新刊 阿部 熹著作 米薪野線十講 洋裝寸珍 定價金一 錢

最新刊 阿部 熹著作 株式金泉秘錄 洋裝寸珍 定價金二 錢

嘉藤運之助著 株式投機奧傳 洋裝三六 定價金九 十 錢

河野市次郎著 米相場奧傳 洋裝袖珍 定價金五 十 錢

千原伊之吉著 成金物語 洋裝四六 定價金一圓四十 錢

井上三味著 株式賣買要訣 洋裝菊版 定價金二 十 錢

靈光道人著 黃金真理 洋裝四六 定價金一 錢

鈴木八郎著 株式短評 洋裝四六 定價金一圓二十 錢

城西隱士著 株式賣買投機研究 洋裝四六 定價金一圓二十錢 郵税金八

城西隱士著 期米賣買投機研究 洋裝四六 定價金一圓二十錢 郵税金八

大平喜代松著 三猿金泉秘講義 和裝菊版 定價金一圓三十錢 郵税金八

岡田乾著 三猿金泉秘錄講義 洋裝菊版 定價金十二錢 郵税金十二

六知道人著 六知式測觀法 洋裝菊版 特價金三圓五十錢 郵税金十二

岸柳莊 兜町物語 洋裝四六 定價金一錢 郵税金八

石原保秀著 米價變動史 洋裝菊版 定價金七十錢 郵税金八

榎山仁三郎著 株式賣買 洋裝四六 定價金一錢 郵税金八

鈴木八郎著 株式市場の裏面 洋裝四六 定價金一圓五十錢 郵税金八

ダイヤモンド社 株主要覽 洋裝菊版 定價金一圓四十錢 郵税金十二

田丸勝之助著 株式相場 誰にも出来る 洋裝四六 定價金一圓十錢 郵税金八

田丸勝之助著 米相場 誰にも出来る 洋裝四六 定價金一圓二十錢 郵税金八

遠藤供雄著 必勝の眞理 一名六甲傳 洋裝袖珍 定價金三圓五十錢 郵税金十二

福澤桃介著 富の成功 洋裝菊版 定價金五十錢 郵税金八

明機堂主人著

期先觀米新秘訣

ボケツト形美本
最新實例足取表入 正價金一圓 送料四錢

本書は先生が秘傳中の極秘を公表せるものにて賣買の要所たる目先相場の戻り押目轉換の價位何十錢臺の相場なれば各何錢なりと一々其値段の位置を示し春夏秋冬何れの月にも必ずの中せざることなし尙ほ本法は目先相場の小掬のみならず大幅相場にも應用して奇利を博せしむ内容は新秘訣の發見及新秘訣の應用、步調率の演繹的運用、實例上の利益計算説明等實験上の懸篤なる説明は他書に見ざる秘法なり

386
28

7

終